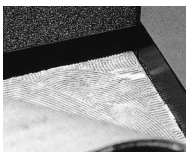
施工方法 / HOW TO INSTALL

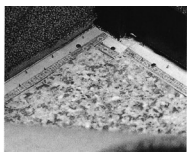
カーペットの良さを高めるためには、施工方法も大切なポイントです。適材適所を考え、適切な工法を選ばなければなりません。
カーペットは、正しい施工がされて、初めて完成品といえます。

直貼り工法



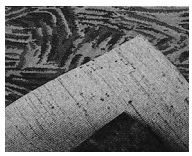
スロープや階段などは、耐久性や安全性が特に要求される場所であるといえます。このような場所は、タルミが出にくい「直貼り工法」が最も適しています。これは、カーペットに接着剤をつけて、直接床面に貼り込んでいく方法です。施工前に注意するべき点としては、後になって接着剤を剥がす場合を考慮して、接着性の度合いを吟味する必要があることがあげられます。

グリッパー工法



「グリッパー」とは、カーペットの固定用具のことです。厚さ6㎜、長さ1200㎜の細長い木片に、針の先（ピン）が60度の角度で15㎜間隔で2列に並んでいます。これを部屋の壁際に固定し、カーペットの裏をピンに引っ掛けて施工する工法です。この工法はカーペットを十分に引き伸ばしてピンにかけるため、使用するうちにカーペットが伸びて波打つことがほぼありません。また敷き替えも容易です。全厚5㎜以下の製品についてはピン長3㎜の使用を推薦しますが、表面にピンが出た場合、引っ掛けて怪我をしないようにピン先処理が必要です。

モノボンド工法（ダブルスティック工法）



厚さ4㎜～5㎜のアンダーレイを、下地床とカーペットの間に敷設し、下地床・アンダーレイ・カーペットのいずれも接着剤で固定する工法です。表面がフラットに仕上がり摩擦抵抗が減るので、耐久性が高まります。施工後のシワ、タルミの心配もほぼありません。

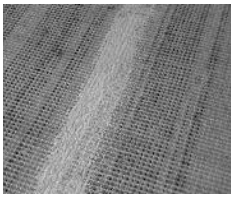
※クリーニングはドライクリーニングで行うことが必要です。

※ウェットクリーニングをする場合グリッパーを打つことをお薦めします。

織カーペットのジョイント施工要領

パイルのある織物〈一般的なウィルトン〉

① パイル糸の目こぼれが無いようにカーペットのカット準備をする



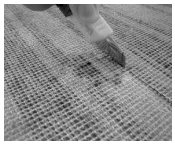
- デザインやテクスチャーをよく理解した後、ジョイントライン（カットライン）を決めてください。
- 希釈したラテックス形接着剤（白のりを水で薄めたもの）を裏返したカーペットのジョイントライン（カーペットのカットする目）に沿って20～30㎜程度の幅で含浸させるように塗布してください。
- 十分に乾燥させてください。

※通常、ラテックス：水＝1：1程度の割合に希釈したものを使用してください。ただし、商品によっては希釈したラテックスが表に染み出す恐れがありますので商品の種類に合わせて水の比率を変えてください。

② カーペットをジョイントラインに沿ってカットする

Ⓐ縦継ぎジョイントの場合

シメ糸（ポリエステル糸）を残すように、カーペットに裏面から①で塗布したジョイントラインに沿ってカッターナイフでカットしてください。
（商品によってはハサミでも可能です）



↑カッターナイフでカットしている状態

↑カット後シメ糸が残った状態

上記の方法がとれない場合、ジョインラインよりも2～3目余分に残すようにカットした後、余分となった部分の組織を分解し、残った地組織をハサミで綺麗にカットしてください。

↑組織を分解している状態

↑分解した後の余分な組織をハサミでカットしている状態

Ⓑ胴継ぎジョイントの場合

カーペットの裏側のヌキ糸（ポリエステル糸と垂直に走っている糸）の上を、カッターナイフでカットしてください。

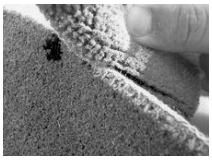
↑カッターナイフでヌキ糸の上をカットしている状態

↑カット後の状態

③ ジョイント時にジョイントライン付近のパイルをほつれにくくする

- カットしたカーペットの耳部分に、希釈したラテックスを2羽（又は2越）程度含浸するように塗布してください。

↑希釈したラテックスを塗布用の適当な大きさの端反に染み込ませた状態



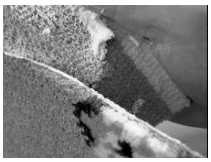
↑左写真の端反に染み込ませたラテックスを耳部分に塗布している状態

※通常、ラテックス：水＝1：1程度の割合に希釈したものを使用してください。ただし、商品によっては希釈したラテックスが表に染み出す恐れがありますので商品の種類に合わせて水の比率を変えてください。

④ ジョイント部分を強力に仕上げる

- ③と同じ方法でラテックスの原液がパイル面にはみ出さないように、気をつけて塗布してください。
- 半乾き状態でジョイント作業を行います。
- ジョイント完了後には、カットしたカーペットの耳同士がラテックスで接着されて、強力なジョイントに仕上がります。

↑ラテックスの原液を塗布用の適当な大きさの端反に付けた状態



↑左写真のラテックスの原液を耳部分に塗布しているところ

ウールカーペットにおこる現象についてのご注意

- 店頭に陳列していたカーペットが短期間にもかかわらず、光にさらされた部分と影の部分で色が違って見える。
- ロールで保管していたカーペットの耳部分が、巾数センチぐらい帯状に変色して色が違って見える。
- カーペットの施工中、不足したので急遽同一ロットの反物を取り寄せジョイントしたところ、色が違って異ロットのように見える。

など、ウールカーペットの場合には、上記のような現象が稀に見受けられます。これはいずれも光にさらされた部分がきれいになり、あたかも色違いであったかのように見える現象です。生地使い（未染色の生地もしくは白色の染色生地）のものは、光にさらされた部分が白く、色物については鮮美に変色します。ウールが光にさらされると、波長域によって黄変と白くさらされるという全く逆の現象が同時に起こります。しかし、この現象の進行速度に大きな差があるために、先ずさらし現象が起こり、次いで時間の経過に伴って黄変が進むように見受けられます。羊毛が太陽光線によって黄変したり、漂白されたりする現象のメカニズムについては、古くから各国の研究機関において、多くの学者によって研究されてきましたが、まだ充分に解明される段階にいたっていません。したがって、残念ながらこれらの現象を未然に防ぐ手だては現在のところありません。一般には羊毛繊維の中に含まれている、ある種のタンパク質が、光のエネルギーによってアミノ酸の分解をするなど、物理的・化学的に変質する為に起こる現象であると云われています。

〈耐光堅牢度との関係について〉フェードメータによる耐光堅牢度との相関性は、全く認められません。したがって、さらし現象が起こるカーペットの耐光堅牢度が弱いということは、全くありません。